

ローマ字と友だちになろう

ー第4学年 コンピュータ活用とローマ字学習を関連させてー

羽 場 邦 子

1 はじめに

本単元は、ローマ字学習と関連させ、コンピュータを活用してローマ字入力による簡単な単語を書くことをねらいとしている。ローマ字は、単音文字であるため日本語の音節構成の理解に役に立つことや日常生活で広く使われている等、言葉の学習として大切である。また、文書作成、インターネット、Eメール等、コンピュータ活用でもローマ字の学習は必要だと考える。事前のアンケートでは、駅・店の看板・ポスター本等でほとんどの子供たちがローマ字を目にしている。また、コンピュータ活用学習は1年生から行っており、4年生でも「絵を描きたい」「手紙を書きたい」「お話づくりをしたい」「インターネットをしたい」等、学習への期待をもっている。

本単元の指導に当たって、次の点に留意した。

- ◎ローマ字とローマ字入力の学習活動を組み合わせることにより、子供たちが学習の必然性や意欲をもつようにする。
- ◎キーボードに慣れることで、コンピュータに親しみながら学習できるようにする。
- ローマ字表記とローマ字入力の仕方の共通点と相違点を明確にする。
 - ・例を挙げると、長音は《ローマ字では、のばす音の上につける。ローマ字入力では、表記の通り入力する。》となり、「ん」は《ローマ字では、Nあるいはnが一つ。ローマ字入力では、NNと入力する。》となる。この他にもいくつかある。
- 指導時間が必ずしも十分とはいえないため、指導の工夫をする。
 - ・文字指導から始め単語の指導に進む。ローマ字とローマ字入力の学習を交互に繰り返す。
 - ・教室の掲示や生活の中で取り上げる等、学習の場を広げる。
- 単に文字を覚えるというような単調な学習にならないように工夫する。
 - ・ゲームやクイズ等の活動を入れる。
- 子供たち一人一人が、自主的・発展的に行おうとする活動を支援する。

2 単元の目標

- (1) 生活で使われているローマ字に関心をもつことができる。
- (2) ローマ字入力により、簡単な単語を書くことができる。(コンピュータ活用)
- (3) 日常触れる程度のローマ字を読んだり書いたりすることができる。

(言語についての知識・理解・技能)

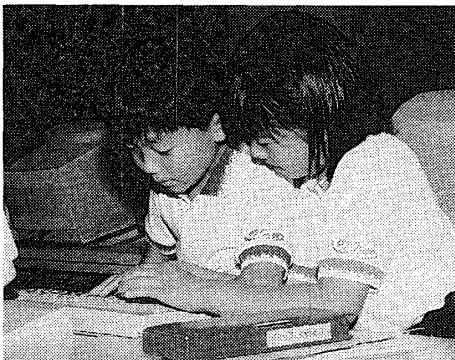
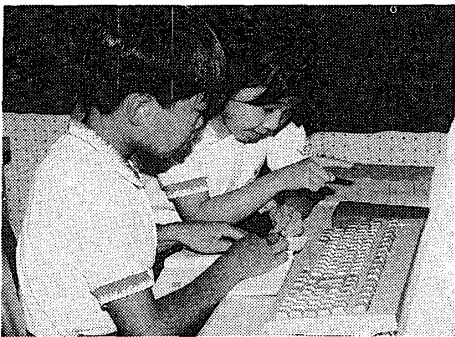
3 学習計画 (総合的な学習 コンピュータ活用：6時間 国語科 ローマ字：6時間)

時	ローマ字学習活動	コンピュータ活用学習活動	時
2	・身の回りのローマ字について話す。 ・大文字、小文字を読んだり書いたりする。	・キーボードを打つ練習をする。 ・「あいうえお」五十音をローマ字入力する。	2

2	<ul style="list-style-type: none"> ・清音，濁音，半濁音，長音，促音，拗音を読んだり書いたりする。(言葉・カード遊び，しりとり遊び等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・清音，濁音，半濁音，長音，促音，拗音をローマ字入力する。(言葉遊び，しりとり遊び等) 	2
1	<ul style="list-style-type: none"> ・名前や地名を読んだり書いたりする。 ・第二表の表記の仕方を理解する。 ・大文字と小文字の表記について確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名前や地名を入力する。 ・第二表の入力の仕方を理解する。 ・漢字，カタカナ，数字，英字の変換の仕方を理解する。 	1
1	<ul style="list-style-type: none"> ・名刺を作る。 ・本時の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名刺を作る。 ・本単元の学習を振り返る。 	1

4 学習の展開 (7/12, 8/12時)

目標： 清音・濁音・半濁音・長音・促音・拗音を使ってしりとり遊びをすることができる。

学 習 活 動	児 童 の 反 応	教 師 の 働 き かけ
1 本時の学習を確認する。	1 共通の課題に沿って自分のめあてを決める。	1 めあてを記述する前に数人に発言を促し，課題に沿っためあてをもつことができるようにする。
2 ローマ字とローマ字入力の表記の仕方の共通点と相違点を確かめる。	2  <ul style="list-style-type: none"> ・入力したりローマ字でワークシートに書いたりして確かめる。【あ】 	2 長音・促音・拗音・んの共通点と相違点が視覚的に分かるようにカードを提示する。
3 ローマ字入力でしりとり遊びをする。	3  <ul style="list-style-type: none"> ・二人でしりとりを入力する。【い】 	3 正しく入力できるようにするため，分からないことは二人で相談してもよいことにする。機械の操作ミスも考えられるのでいねいに机間指導を行う。

4 しりとり遊びの言葉をローマ字で書く。	4・しりとりをローマ字で書く。【う】 ○これはのぼす音になるのかな。 ○つまる音はこれでいいのかな。	4 机間指導を行い、正しく表記できているかどうかを確認し助言する。
5 本時の学習を振り返る。	5・ワークシートに自由記述で本時を振り返る。	5 次時の学習を話し、見通しをもつようにする。

【あ】前時までの学習で子供たちの反応や表記の間違いを記録し、本時の導入を工夫した。子供たちが難しいと発言したのは、長音・促音・拗音だった。促音は、2つ入力（書く）文字をどのように見つけたらよいか分からないようだった。「先生、どれを2つ書いたらいいの。」という質問をよくしていた。促音と拗音はローマ字の表記と入力と同じである。しかし、長音ではローマ字の表記と入力異なる。例えば、kyousitu(教室), otousan(お父さん)は入力としては正しく、ローマ字表記としては間違いである。子供たちが最も混乱したところである。「それぞれの書き方の約束をしっかりと覚えよう。」と話し、アルファベットのカードで視覚的に理解できるようにした。教師が一方的に説明するのではなく、子供の気づきや発言をつないで、子供自らの言葉で理解できるようにすることが大切だと考える。

【い】しりとりは、二人でやるから楽しい。正しく入力しなければ、ひらがなに変換することができない。長音、促音、拗音等は、何度も入力していた。入力の仕方が分からなかったら相談しに来た。コンピュータの操作ミスもある。どこかのキーにうっかり触れると、いろいろな表示も出てくる。クラスの中には、操作に慣れている子供たちもいる。自分の知っていることを友達に教える場面も多く見られた。学び合いの姿を見ることができた。

【う】子供たちは、コンピュータの画面を見ながら、しりとりをした言葉をローマ字で書いた。「しりとりが終わったから、もう同じ言葉を書きたくない。」とは言わなかった。「ようし、正しく書くぞ。」と意欲的であった。表記が間違っている子供には助言したり、書く活動を中断して、全員で「書き方のやくそく」を再確認したりしながら学習を進めた。まだ、表記の間違いはなくならないが、「先生、だんだん書けるようになったよ。」「今日は、言葉を〇個書いたよ。」等満足そうな声をたくさん聞いた。

5 学習を終えて

本単元学習の振り返りでは「ローマ字を書くのがむずかしかったけれど、たくさんおぼえました。名しに自分の顔をかいて工夫しました。」「ローマ字が分かってコンピュータでいろいろなことが書けるようになってよかったです。」等の記述があった。これまで、子供たちは、ローマ字学習の必然性をもちにくかったように思う。コンピュータ学習と関連させることにより、必然性と意欲をもって学習に向かうことができた。

本単元の学習後、インターネットによる情報収集、文書作成の学習を行った。現在、進んでワープロで手紙や日記を書いたり、Eメールを活用したりする子供も増えた。総合的な学習では、インターネットの活用も多くなった。子供たちは、コンピュータを活用できたという喜びとともに、画面の向こうにいる相手を意識し、その人たちとの交流にも喜びを感じている。コンピュータを単に情報収集、情報の発信などの手段として活用するだけでなく、主体的にコンピュータと関わり、自分の生活を豊かにできるように、今後も指導していきたい。